

久我山だより

令和5年7月20日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashou/>

生成AIを使ったことありますか？

～ 新しいテクノロジーの光と影 ～

校長 小原 潤

都内のある小学校で要約文をつくる宿題を出したところ、チャットGPTで作ったものを提出した児童がいたそうです。すぐにあやしいと先生に気付かれてしまったのは、小学生には「あまりにも出来がよかった」からだそうです。笑えない話ですが、チャットGPTなど生成AIは、急速に私たちの社会に広がっているようです。

私自身も先日、生成AIを実際に使ってみました。「あなたは、小学校の校長です。梅雨についての全校朝会の講話を考えてください」と投げかけたところ、30秒くらい考えて、よくできた講話をつくってくれました。「梅雨にもよい面がある」「みなさんも雨の日の楽しみ方を見つけてほしい」など、本当にAIが作ったものかと驚くような文章でした。(この講話は、実際の全校朝会で、AIがつくったものと断った上で、全校児童に紹介しました。)

実際に使ってみて、これは様々な場面で応用ができるなど実感しました。これらの新しいテクノロジーを積極的に取り入れて、使いこなしていくことはとても大切なことです。

7月4日に、文部科学省が、生成AIの学校での取り扱いについての暫定的なガイドラインを公表しました。

それによると、「適切な活用例」として、

- ・グループ学習で考えをまとめる途中段階として足りない視点を見つけるための活用。
- ・英会話などの相手として使うこと。

・情報モラル教育の一環として教師が生成AIの誤った回答などを使用しその性質や限界について気付かせること。

が挙げられています。

一方、「不適切な活用例」として

- ・生成AIのメリット、デメリットなどを学習せずに使わせること。
- ・読書感想文などのコンクールやレポートを提出する際、生成AIがつくったものを自分の成果として提出すること。
- ・定期考査や小テストなどで子どもたちに使わせること。などを挙げています。

生成AIに限らず、ネットには落とし穴がいくつもあります。6月5日に発表された、東京都教育委員会の調査では、小学生の4人に1人がネットゲームで課金経験があるそうです。また、トラブルや嫌な思いをした経験の内容(小学生)では、「メールやSNSに書き込んだ文章が原因で友達とけんかになった」、「無料通話アプリなどのグループで仲間外れにされたり、勝手に退会させられたりした」、「グループ内や誰もが見られるところで自分の悪口や個人情報を書かれた」などが上位となっていました。

明日から夏休み、ネットに触れることも多いと思います。「効果的な使い方」や「情報モラル」について親子でお話する機会をもってみませんか。